

## (その2 台所ゴミの量と食生活及び買物行動との関連)

大阪市大〇北浦かほる 灘神戸生協生活文化センター 鈴木洋子 上新電機 竹内史恵

<はじめに> 台所ゴミの量を左右すると思われる各家庭での生活要因の把握とそれがどう関わっているかを追求する事が本研究の目的である。

<調査の概要> 台所ゴミと関連する食生活の状態を把握するために重量計測調査と平行して、毎日の食事作りで利用した食品とその種類数について①冷凍・半加工食品の利用、②調理済み食品の利用を朝・昼・夕食毎に1カ月間記入してもらった。またその間の食料品の買物場所(①スーパー②小売店③材料サービス④協同購入⑤青空市場等)と買物日数を記録してもらった。調査期日は昭和63年7月～9月の夏期の1カ月間である。

<結果と考察> 1)食生活の簡易化: 半加工食品の利用は夜が最も多く平均16.7回/月で、調理済み食品の利用は昼と夜に多く平均7.0回/月である。全体では23.6回/月・世帯で1回あたり利用種類数は1.5種類/食である。半加工食品の利用は1人暮らしで少なく、老夫婦やパートの主婦で多い傾向があった。2)買物行動: 1カ月の平均買物日数は22.2日、買物場所はスーパー100% 小売店90% 協同購入45% 材料サービス1.5% 青空市場等40%の利用率であった。買物日数は4人家族や2世帯家族、パートの主婦に多く、協同購入は専業主婦や5～6人家族で有意差があった。3)ゴミの量との関係: 半加工・調理済み食品の利用数と最も関連のみられたのはボトルの数であった。生ゴミと缶は半加工食品の利用数と、トレイと瓶は調理済み食品の利用数と関連が見られた。生ゴミと紙・プラスチックの量は買物日数、場所数と関係が見られ、スーパーや商店、材料サービス(生ゴミは除く)の利用者に多く、協同購入や青空市場の利用者に少い。トレイの数はスーパーの利用者に多い。